

(2) コロナ禍、生活費の高騰中での見直し

新型コロナウイルス感染症への対応や、電気代など物価が高騰するなかでの水道料金の見直しについては、市民生活に直接影響を及ぼすことであるが、水道施設を適正に維持管理し、市民の皆さんへ安定した水質の水道水を届け、水道事業を将来も持続させていくためには、定期的な料金の見直しが必要である。

厳しい経済情勢での水道料金見直しであるため、子育て世帯や高齢者への配慮、また事業者などへの支援については、市の施策として別に考える必要がある。

(3) 小口使用者への配慮

過去の改定では口径13ミリ、20ミリを使う一般家庭の改定率を低く抑えられてきた。今回は基本料金を値下げしつつ、基本水量を廃止している。ひと月4m³以下の使用者は値下げとなる。

(4) 大口使用者への配慮

企業や事業者、また多人数世帯などの大口使用者への影響については、今回の見直しでは従量料金の改定を見送られており、相対的に改定率を低く抑えることとなっている。

2. 雲南市の水道事業の現状

(1) 水道事業の課題

雲南市内には管理する施設は浄水場33か所、配水池109か所、水道管約906kmと管理する施設が多く存在し、20年後には552kmの水道管が耐用年数を経過してしまうこととなる。また、基幹管路の耐震適合率も現在26.5%にとどまっている。

安心・安全な水道水を届けるため、計画的な改良・更新が必要であり、そのための有利な財源（補助金など）を確保する取組みを進める必要がある。

(2) 水道料金の未収金について

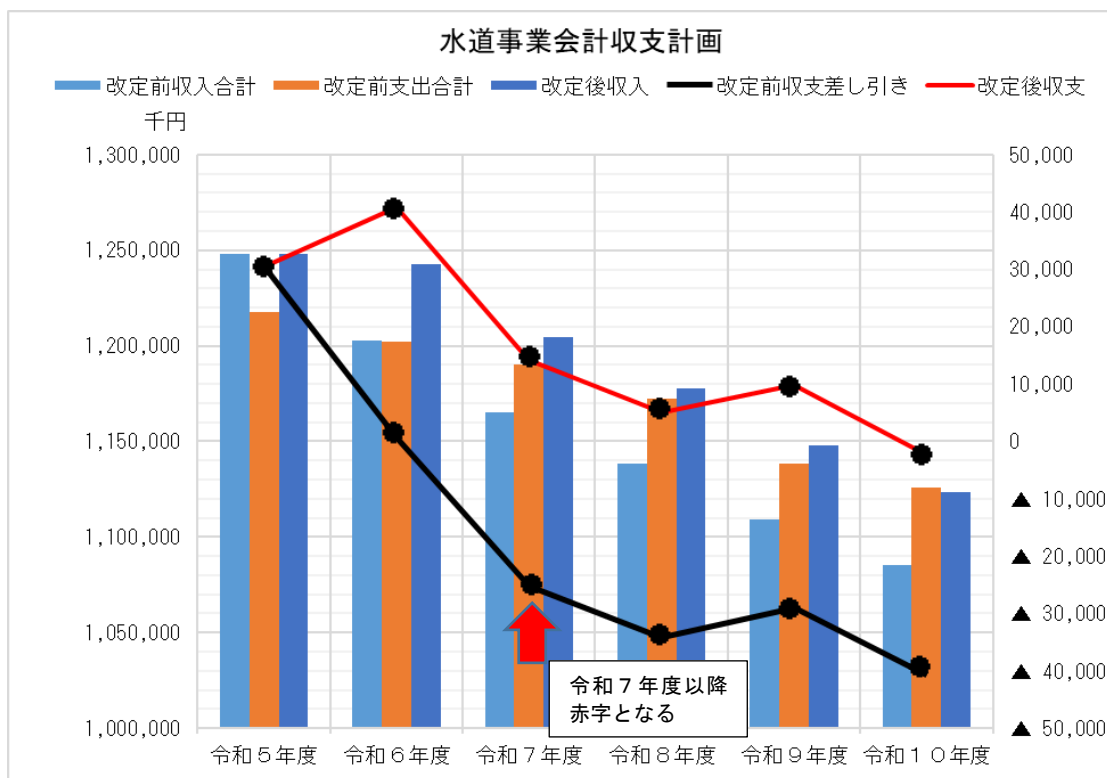
水道料金の収納率は99.5%であり高い。近年でも未収金は減る傾向にある。

水道料金未収金の推移

(単位:千円)

項目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
未収金 (前年度以前分)	7,442	6,953	6,576	6,057	5,107

(3) 水道事業会計の経営状況



昨今の物価の高騰は水道事業にも大きな影響を及ぼしている。令和4年度当初と比べ令和5年度当初予算では、電気代だけでは34.1→33.5%の増となっており、資材や人件費の値上がりで工事費や修繕費も増額となっている状況である。

5年間での料金算定期間ではあるが、今後の情勢によっては算定期間中でも見直しが必要になる可能性もある。

(4) 一般会計繰入金状況

雲南市の水道事業は水道料金だけでは経常費用を賄うことができないため、一般会計から多額の補助金を繰り入れている。

令和3年度料金回収率※・・・82.04%

【※料金回収率・・・給水にかかる費用が水道料金でどれだけ賄われているかを表す。100%以下の場合、水道料金以外の収入によって賄われていることを示している。】